
僕が絵を描く理由

麻真

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕が絵を描く理由

【著者名】

Z4859G

【作者名】

麻真

【あらすじ】

主人公（僕）は、経済的にも時間的にも、ギリギリの生活を送っている。だけど、その生活をもつと締めつける「絵を描く」という作業を、どうしてもやめるわけにはいかない。なぜ、誰のために、そんな無理をしなくてはいけないのか、を「僕」が語ります。

僕は絵を描いている。

「いい趣味ですね。」

なんて言われたりするけど、

趣味なんかじゃない。

半分は仕事の延長、

半分は今まで生きてきた流れで、
描かざるをえなくなつていてるから。

僕の仕事は美術の非常勤講師。

時給制で、授業した時間だけの報酬をもらいつ。

授業以外の時間にやらなきやならない仕事も

学校にはたくさんあるから、

なんだかんだで、けつこう忙しい。

生活費が足りない時は、土日もバイトする。
もちろん夏休みなど長期の休みも

給料は出ないからアルバイト。

養う家族もある。

生活はキビシイ。

時間もお金も、いつもギリギリ。

食べていくだけでも精一杯なのに、

それでも、僕は絵を描かなきゃいけない。

展覧会に出品するためにかかるお金は、

会に収める会費や運搬費用なども含めて、

年間10万円以上。

生活費をきりつめて画材を買い、

寝る時間をけずってキャンバスに向かつ。

1枚の作品を仕上げるのにかける時間は
だいたいどれも100時間くらい。

細かい表現を見せ場にしている作品が多いから、
どうしてもそのくらいはかかるてしまう。

1枚仕上げた後には
魂を吸い取られたくない
疲れ果てている。

正直、今は絵を描くことが苦しい。
昔のように、絵を描くことが楽しいと感じることは
ほとんどなくなつた。

こんな風に言つと

絵を描くことが嫌いなのかと思われそうだけど、
決して嫌いなわけじゃない。
ただ、描きたくて描いているのじやなく、
描かなくちゃいけないから描いているという状態に
追い込まれているだけだ。

何を描きたいかがわからないのに、
展覧会の日が迫つてくるときなど、

恐怖に近い感情に襲われる。

忙しさで自分を失っている人間から、
いい作品など生まれるはずがない。

それでも無理やり心の奥底を引っかきまわし、
隠れている自分を引きずり出して、絵にする。

昔も今も、

僕は自分の描いた作品に
異常なくらい執着がある。

雑巾をしぼるように

自分をしぼって描いた作品は、
消して手放すことはしない。

自分の身を削つて描いた

僕の分身だ。

他人に渡してしまうなんて考えられない。

額からはずした作品を、

人に素手で触れられるのも、

絶対に嫌だ。

本当は、展覧会に展示することだって
好きではない。

人に見てもらつてこそ

価値があるのかもしれないけれど、

運んでいる間に傷つくことがあるかもしねれない。
陽にあたつたり、雨にぬれることだってあるのだ。
絵が傷んで帰つてくるんじゃないとか、

いつも心配しながら送り出す。

もし火事なんか起こって
あの絵たちが消えてなくなつたら
僕は気が狂つてしまふだろう。
そのくらい

僕は自分の作品を愛している。

だから僕は

あまり絵を描きたくない。

死ぬまで自分でめんどう見れる枚数しか
作品を産みたくないのだ。

今は年に一度

東京の展覧会に出品する作品しか描いていない。
地元の展覧会には、
その作品を何度も回して展示する。
絵の会の中では
さぼつているように言われるけど、
これが僕にはちょうどいい。

そして、

描かなければいけない状況に追い込まれている今の生活も
僕にはちょうどいい。
もし描かなくてもいいのなら、
暮らしに追われて絵を描くのをやめてしまい、
自分が絵を描けるということさえ
忘れてしまう気がするから。

絵は僕の子ども。

人として生まれた娘と同じように、
自分の身を分けた子どもたちだ。

僕が無名のまま死んでしまったら、
僕が残した子どもたちは
ゴミ捨て場に運ばれていいくだろう。
娘が自分の兄弟たちを
死ぬまでめんどう見てくれたとしても、
そのあとは同じこと。

もし僕が画家として

わずかでも名を残したなら、
僕がいなくなつた後も、
子どもたちがいくらか大切に
扱つてもらえるかもしない。

だから僕は、

絵を描く。

一人前の画家と呼んでもらえる日まで。

僕が消えたあと、

ひとりでも多くの子どもたちがかわいがつてもらえるように、
苦しくても僕は、

絵を描くことをやめない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4859g/>

僕が絵を描く理由

2010年10月10日06時47分発行